

韓国映画の源流

講師：四方田 犬彦

2013年10月1日（火） 18：30～20：30（開場18：00）

会場：公益財団法人日韓文化交流基金 会議室

参加無料・要申込 ※講演終了後、簡単な懇談会を予定しています。

韓国は1990年代に到るまで、日本文化の「侵入」に著しい制限を設けてきた。ところがどうしても禁止できないものが、一つあった。新派である。明治期に日本で生じた歌舞伎の近代的改革ともいべきこの演劇的ジャンルは、植民地下の朝鮮に移入されるや、ただちにメロドラマの原型となり、今日の韓流TVドラマに到るまで、韓国人のメロドラマ的想像力に決定的な形を与えている。『金色夜叉』が1926年と1964年に、二度にわたって映画化され、また繰り返し舞台に挙げられてきたことの意味を考えないかぎり、韓国映画の本質は解明できない。それを見つめることは、日韓のみならず、東アジア文化全体を考えることに通じている。



講師略歴

東京大学で宗教学を、同大学院で比較文学を学ぶ。文学と映画を中心に批評活動を続け、明治学院大学で長らく教鞭を執った。中央大学校（ソウル）、ポローニャ大学、テルアヴィヴ大学、コロンビア大学などで、客員教授、客員研究員。著書は120冊を超える。近著に『ルイス・ブニュエル』『マルクスの三つの顔』『アジア的体験』。またサイド、パゾリーニの翻訳がある。伊藤整文学賞、桑原武夫学芸賞、サントリー学芸賞などを受賞。韓国には2度にわたって長期滞在し、1980年代初頭から韓国映画の連続上映を組織。『ソウルの風景』で日本エッセイストクラブ賞。

■お申込み・お問合せ

9月30日（月）までに、電話、ファクス、電子メールでお申込みください。定員（35名程度）を超えた場合、早めにお申込みを締め切る場合があります。

■お申込みの際に、①お名前②ご連絡先（電話番号、メールアドレス）③ご所属をお知らせください。

TEL. 03-5472-4323/ FAX. 03-5472-4326

E-mail: lecture@jkcf.or.jp

担当：青嶋・相（あい）

■周辺図・交通案内



東京都港区虎ノ門5-12-1 虎ノ門ワイコービル4F

東京メトロ日比谷線神谷町駅1番出口から徒歩1分